

## 令和7年度 伊勢市避難行動要支援者避難支援対策会議 要旨

開催日時	令和8年3月27日(金) 15時00分~16時30分
開催場所	伊勢市役所東館5階 5-3会議室
出席委員	7名(下記関係機関の代表者) 伊勢市総連合自治会 下野功純 委員 伊勢市民生委員児童委員協議会連合会 倉井勲 委員 伊勢市社会福祉協議会 中森忠司 委員 伊勢市老人クラブ連合会 伊藤弘 委員 三重県介護支援専門員協会 高阪正雄 委員 伊勢市障害者施策推進協議会 自立支援部会相談支援ネットワークグループ 加藤志保 委員 伊勢市ボランティア連絡協議会 泰道詞子 委員
事務局	健康福祉部長、健康福祉部次長、高齢・障がい福祉課長、 主幹兼障がい福祉係長、高齢福祉係長、高齢福祉係員1名 介護保険課長、消防課長
傍聴者	1名

### (1) 会議の概要

本会議は、高齢者や障がいのある人など災害時に避難の支援を必要とする避難行動要支援者に対する、令和7年度の伊勢市の取組状況の報告、地域の支援体制についての取り組み、および次年度の方針などについて報告を行った。

### (2) 令和7年度の取組状況の報告

事務局より、避難行動要支援者の状況や個別避難計画の作成状況について報告を行った。

令和7年4月時点の避難行動要支援者数は15,901人、防災ささえあい名簿登録者は3,132人、個別避難計画作成者数は2,489人。

優先度の高い対象者(約2,300人)に対し、福祉専門職(ケアマネージャーなど)の協力を得て実態把握と個別避難計画の作成を推進した。

作成された計画のうち、約4人に1人(25.1%)が「近所に避難を助けてくれる支援者がいない」状況であるため、自治会や地域全体を巻き込んだ支援体制づくりが最大の課題となっている。

### (3) 地域の支援体制についての取り組み(事例発表)

医療的ケア児者を対象とした災害時の取り組みについて発表。

当事者の居場所のマッピング、他市町での避難訓練事例の共有、当事者・関係者・地域住民が参加する地域会議を開催。

見えてきた課題として、人工呼吸器などの電源確保、大量の荷物を持った避難移動の困難さ、道路や橋の損壊による避難経路の寸断などが挙げられた。

「自助・共助」を高めるための「顔の見える関係づくり」と、当事者の実情を地域に知ってもらうための実践的な避難訓練の実施が重要であると共有された。質疑応答では、この取り組みが高齢者の避難支援にも応用できるとの意見が出た。

#### **(4) 令和 8 年度の取り組みについて**

事務局より、前年度の課題を踏まえた次年度の取組方針を提示。

個別避難計画の様式変更について、災害種別（台風・大雨と地震・津波）に分けて記載できるようにし、家屋の構造（木造・鉄筋など）や持ち出し品のチェック欄を追加することで、実効性を高めつつ記入の負担を軽減する。

また、計画の作成において、専門職が訪問しやすくするため、市から先に対象者へ計画作成の勧奨通知を郵送する。

より実効性のある計画にするため「支援者がいない計画」や「令和 4 年以前に作成された古い計画」の対象者に対し、更新通知を送付し、見直しを図る。

#### **(5) 全体を通じた意見交換**

・鹿海町自治会では、毎年避難訓練を実施しており、今年は障がいのある人の避難をリヤカーで行ったが、避難所へ到着するのに時間を要したため、迅速な避難が課題となった。

・当事者や家族の制度への理解、行政・専門職・地域が密に連携し、粘り強く対象者へ働きかけていく必要性がある。

・市からの通知を発送する際は地域にも共有してほしい。